

3. 参考情報

(1) トピックス

平成22年夏の記録的高温による被害を契機として、都道府県において新たに
取り組み行った適応策等の事例を紹介する。

※水稲については、P6に取組状況等記載

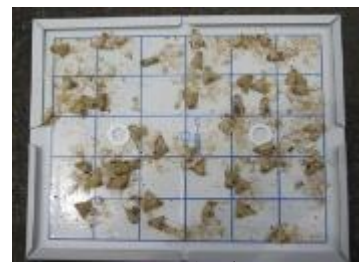
(露地作物全般) オオタバコガ早期警戒ネットワークによる適期防除 (山形県)

温暖化によりオオタバコガが多発し、露地品目を中心に被害が大きくなって
いるため、県内各地にオオタバコガの誘殺トラップを設置し、その誘殺情報を
関係者で共有し、生産者に適期防除の指導を行った。

その結果、オオタバコガの発生は平成23年は前年よりも多かったが、適切に
防除されたため大きな被害は見られなかった。

今後も引き続き実施予定。

【連絡先】山形県農林水産部生産技術課 電話：023-630-2444



オオタバコガ

(大豆) 新品種導入による大豆の安定生産 (栃木県)

平成22年夏の猛暑によりタチナガハに青立ち株が大発生して収量が大幅に低
下した。

そのため、タチナガハに替わる有望品種の選定試験の中で、新品種「里のほほ
えみ」が青立ちが少なく安定した生産を示したことから、奨励（認定）品種採用
に踏み切り、23年から県内全域で試作を始めた。

今後は、3～4年後を目途に、タチナガハから切り替える方針で、栽培法の確立、
工場規模の実需評価等を進める予定。

【連絡先】栃木県農政部経営技術課 電話：028-623-2321



里のほほえみとタチナガハの比較

(茶) 夏の干ばつ時期を見越した浅刈り時期等に関する講習会の開催 (佐賀県)

二番茶収穫後の浅刈り更新（枝条の切り戻し）を行った茶園では、その後の高温・干ばつの影響により、秋
芽の芽伸びが悪く、翌年の一番茶の収量が低下する事例が見られた。このため、栽培研修会において、干ばつ
の影響をできる限り回避するための二番茶収穫後の浅刈り更新の処理時期とその程度等について情報交換を実
施。今後も普及センター、JAと連携し、茶生産者への情報提供や技術指導を継続する。

【連絡先】佐賀県茶業試験場 電話：0954-42-0066

(野菜) トマト・ほうれんそう等の高温対策事業の取組 (岐阜県)

夏秋トマトにおいて、地温抑制による青枯病等の高温性土壌病害の発生
抑制を目的とし、反射マルチ資材の導入を実施し、夏ほうれんそうでは、
発芽率向上や生育遅延の回避のため遮光資材の導入を行った。

平成23年は22年ほどの猛暑とはならなかったため、産地全体では資材導
入による効果が気象変化の影響かは判然としない面はあったが、個々の生
産者間では病害回避や生産安定に効果が上がったとの評価が得られた。

今後は、特に夏ほうれんそうの遮光資材の利用について、曇雨天の被覆
が直接的に収量低下につながることから、気象変化に応じた資材の利用方
法の徹底を図る必要がある。

【連絡先】岐阜県農政部農産園芸課 電話：058-272-1111
(内線2865)



反射マルチ資材の導入 (夏秋トマト)

(野菜) ホウレンソウからコマツナへの転換 (群馬県)

群馬県太田市A地区では、雨除けハウスを利用したホウレンソウ栽培を行っており、近年、周年栽培が増加してきた産地であったが、平成22年夏の高温により、発芽・生育が著しく低下し、生産が不安定となったことから、暑さに強く同様の作業体系で栽培できる品目として、農家・JA・県普及指導課で協議し、複数の品目について推進した結果、コマツナを導入する生産者が5戸(平成22年)から30戸(同23年)と大幅に増加した。栽培が容易であることから、来年度は更に増加する見込み。

今後は、新しい遮光資材による試験や高温時期は露地で栽培する等を検討。

【連絡先】群馬県東部農業事務所普及指導課 電話：0276-31-2212



暑さに強いコマツナへの転換

(野菜) 夏秋いちごの夏季高温対策技術の開発と普及 (山形県)

平成22年夏の猛暑により、県内各産地とも収量・品質が大きく低下した。これを受けて試験研究機関において、夏季高温対策技術開発に取り組んだ。

ハウス内散水による昇温防止技術の効果が明らかになり、また、普及組織において、現地実証ほど局所冷却技術の効果を明らかにした。これらの取組みにより、遮光資材の展張やハウス換気と組み合わせて、効果の高い手法が開発された。これらの成果をもとに、研修会を開催し、夏季高温対策技術の積極的な実施に取り組んでいる。

【連絡先】山形農林水産部生産技術課 電話：023-630-2444

(野菜) 平成22年猛暑等を受けたねぎの高温対策 (富山県)

平成22年の猛暑等により、ねぎにおいて砂地産地の生育が著しく遅延し、水田転換畑では局地的豪雨による湿害の発生が多く見られたことから、23年度から2年間、対策実証圃を設置している。砂地では、スプリンクラーによるかん水管理の実証、遮熱シートによる高温対策実証を行い、かん水の効果は確認された。水田転換畑では、フォアスを設置して排水灌漑実証を行い、排水性の格段の向上が確認された。24年度においても、引き続き実証を行い、その成果を普及していく予定。

【連絡先】富山県農林水産部農業技術課広域普及指導センター
電話：076-429-5041



砂地でのスプリンクラーによるかん水管理の実証

(果樹) 熱帯果樹の導入を目指した研究開発 (千葉県)

千葉県では、南房総地域の新しい観光・直売品目として熱帯果樹であるパッションフルーツとアテモヤに注目し、その導入、普及を目指した県単プロジェクト研究を実施している。

現在、千葉県において栽培に適し果実品質に優れた品種を選定し、栽培技術の確立に向けて研究を進めている。

【連絡先】千葉県農業総合研究センター
電話：043-291-0151



パッションフルーツ



パッションフルーツの栽培風景

(果樹) うんしゅうみかんから中晩柑への転換 (香川県)

県の高松地区及び三豊地区では、うんしゅうみかんの生産を中心とした産地形成を行ってきたが、温暖化による浮き皮の発生や品質低下のリスクが大きくなっていることから、不知火等の中晩柑への改植を進めている。

中晩柑は多くのうんしゅうみかん産地の品目転換作物として生産量が増えていることから、雨よけ完熟栽培や簡易貯蔵技術等を組み合わせた出荷時期調整を行う等、高付加価値販売を推進する計画。

【連絡先】香川県農林水産部農業経営課 電話：087-832-3412



うんしゅうみかんの
浮き皮



不知火等の中晩柑への改植

(花き) ヒートポンプ導入農家における夏季夜冷の実施 (神奈川県)

バラ生産において近年、燃油高騰を受けてヒートポンプが導入されていたことを受け、県では、夏場の夜間高温による品質低下を防ぐため、ヒートポンプによる夜間冷房を推進した。これまで夏場にはほとんど出荷することができなかったが、夜間冷房を実施した園では、茎が硬くしっかりとした切り花の生産が可能となり、例年以上の収量を確保することができた。

今後も、本取組の普及に努めていくが、電気料の動向等、経営面における精査が必要。

【連絡先】神奈川県農業技術センター普及指導部
電話：0463-58-0333



ヒートポンプによる夜間冷房での夏場の収量確保

(畜産) 酪農における暑熱対策技術の導入 (兵庫県)

乳用牛は暑熱ストレスに弱く、従来から、牛舎での送風扇設置等の暑熱対策が高じられてきたが、平成22年夏の猛暑は、乳量の低下や人工授精による受胎率が低下する等、大きな被害を及ぼした。

このことを踏まえ、23年は酪農協等の関係機関と連携強化し、暑熱対策技術の導入を推進した。その結果、南あわじ市の酪農家がトンネル換気システムの導入、牛舎屋根への石灰乳塗布によるや輻射熱の低減、送風扇の増設による牛舎内の通気性の向上、細霧システムの設置による牛舎内温度の低減及び日よけ植物の植栽等の取り組みが進んだ。

今後も、関係機関連携の下、経営に見合った暑熱対策技術の導入推進を図っていく予定。

【連絡先】兵庫県農政環境部農林水産局畜産課
電話：078-362-3453



トンネル換気システムの導入



牛舎屋根への石灰乳の塗布

(2) 都道府県における地球温暖化適応策関連予算状況

各都道府県における地球温暖化適応策関連予算について、24年度当初予算を中心に紹介する。

①生産現場への支援

| | 都道府県名 | 事業名 | 事業実施期間(予定) | 予算額(千円) | 事業実施主体 | 補助率 | 事業概要 |
|----|-------|---------------------------|------------|--------------------|--------------------------|----------------------|---|
| 1 | 青森県 | 活力ある米づくり総合支援事業 | H23年度～26年度 | 2,762 | ①県 ②農協、営農集団等 | ①定額 ②1/4以内 | ①気象変動に対応した品質向上対策連絡会議の開催等 ②気象変動に対応した土づくり用機械等の導入支援 |
| 2 | 青森県 | 「冬の農業」省エネ施設等整備事業費補助 | H21年度～23年度 | 10,584 (H23年度) | 市町村、農業集団、営農集団、認定農業者等 | 1/4以内又は1/3以内 | 県産冬野菜の供給拡大を図るため、省エネ型の冬の農業ハウスや暖房機等の導入・整備を支援 |
| 3 | 千葉県 | 「輝け！ちばの園芸」産地整備支援事業 | H23年度～25年度 | 30,000 | 園芸農家 | 1/4以内又は1/3以内 | ハウスと一体的に整備する省エネ機械等(省エネ暖房機、カーテン(暑熱対応を含む))の導入を支援 |
| 4 | 岐阜県 | 元気な園芸特産産地育成対策支援事業 | H22年度～24年度 | 4,000 | 営農集団等 | 1/4以内又は1/3以内 | 単収向上、省力化、低コスト等生産性を向上させる新技術導入を支援 |
| 5 | 岐阜県 | 飛騨・美濃じまん農産物育成支援事業 | H23年度～25年度 | 160,000の内数 | 農業者の組織する団体等 | 1/3以内 | 地球温暖化に適応するための機械施設導入を支援(遮光ネット施設、ヒートポンプ、細霧冷房装置、換気装置) |
| 6 | 和歌山 | 野菜花き産地強化事業うち省エネ、低コスト推進型 | H19年度～ | 5,646 | 市町村、農協、農業者団体等 | 1/3以内 | 省エネ機器(循環送風機、二重カーテン、多段式サーモ等)の導入を支援 |
| 7 | 鳥取県 | 鳥取県産米販売促進支援事業 | H24年度～ | 1,600 | 鳥取県産米改良協会、JA全農とっとり、生産組織等 | 1/2以内 | (1)きぬむすめに係る栽培技術を生産現場に浸透させるとともに、良品生産を図る (2)消費者等にきぬむすめをPRし、市場評価を高める (3)食味向上、特徴のある米づくりの取組みにおける技術確立、PR等販売促進 |
| 8 | 岡山県 | めざせJ1!園芸作物ステップアップ事業 | H21年度～25年度 | 99,125 | 農協・営農集団等 | 1/3～1/4以内で整備費等を補助 | 省エネ機器を含めた新技術の導入や産地がステップアップするための取組を支援 |
| 9 | 愛媛県 | 愛媛水田農業経営確立対策事業 | H19年度～24年度 | 13,713の内数 | JA | 1/2以内 | 気象変動に対応した新品種・技術導入のための現地実証圃の設置 |
| 10 | 福岡県 | 活力ある高収益型園芸産地育成事業 | H22年度～26年度 | 1,415,000の内数 | 営農集団、認定農業者 | 1/3以内 | 施設園芸における高温期の栽培環境の改善を図るために必要な資材の導入を支援 |
| 11 | 長崎県 | 輝くながさき園芸産地振興計画推進事業 | H23年度～27年度 | 99,000 | 農業者が組織する団体等 | 1/3以内 | 気象変動対策として、防風資材、昇温抑制資材等導入を支援 |
| 12 | 佐賀県 | さかの米・麦・大豆競争力強化対策事業 | H21年度～25年度 | 80,176の内数 | 農業者が組織する団体、農協 | 1/2以内 | 特に21年度は、高温に強い水稲新品種「さがびより」の栽培検討会の開催や、高付加価値型生産技術確立実証ほの設置などの活動を支援 |
| 13 | 佐賀県 | さかの強い園芸農業確立対策事業 | H21年度～25年度 | 569,649の内数 | 農業者が組織する団体等 | 県：1/3以内 市町：1/10以上 | 猛暑対応ハウスや細霧冷房装置、全面開放装置など、猛暑被害軽減の効果が認められる機械・装置の整備に係る経費を補助 |
| 14 | 鹿児島県 | 良質・良食味新品種「あきほなみ」栽培技術モデル事業 | H21年度～24年度 | 591 | 県 | — | 温暖化の影響を回避できる品種として、ヒノヒカリより出穂が10日程度遅い本県育成の良食味品種「あきほなみ」の普及拡大を推進 |
| 15 | 鹿児島県 | 酪農振興緊急対策事業 | H21年度～23年度 | 7,500千円 (H23年度) | 県酪農業協同組合 | 1/3以内 (限度額500千円) | 夏期需要期の生乳生産性向上を図るため乳牛の飼養環境改善に必要な送風機や飼槽改良等の整備(取り崩し型) |

②試験研究関係

| | 都道府県名 | 事業名 | 事業実施期間 (予定) | 予算額 (千円) | 事業実施 主体 | 補助率 | 事業概要 |
|----|-------|---|----------------|------------------|----------------------|-----|---|
| 1 | 北海道 | 地球温暖化と生産構造の変化に対応できる北海道農林業の構築 | H21年度～25年度 | 10,670 | (地独)北海道立総合研究機構農業研究本部 | 定額 | 温暖化に伴う作物生育上の障害についての予測を行い、想定される技術対策を検討するとともに、栽培可能となる新規資源作物を探索 |
| 2 | 北海道 | 地中熱交換システムを活用した省エネルギー施設園芸システムの評価 | H23年度～25年度 | 5,000 | (地独)北海道立総合研究機構農業研究本部 | 定額 | 自然エネルギーの有効活用により温暖化ガスの排出を抑制できる施設園芸作物の栽培技術を確立 |
| 3 | 北海道 | 天北地域における干ばつ被害予測を考慮した適正草種導入区分図による良質粗飼料生産 | H21年度～23年度 | 1,800 (H23年度) | (地独)北海道立総合研究機構農業研究本部 | 定額 | 干ばつ被害が頻発する地域で、温暖化等による干ばつ被害予測を考慮した区分図を作成し、良質粗飼料生産に向けた改善案とともに利用できる手法を示す |
| 4 | 北海道 | 温暖化条件における優良草地の維持対策 | H23年度～31年度 | 68 | (地独)北海道立総合研究機構農業研究本部 | 定額 | 草地整備や施工状況を長期的に調査して植生悪化の原因を解明 |
| 5 | 青森県 | 水稻のくさび米の発生要因の解明 | H23年度 | 1,500 (H23年度) | (地独)青森県産業技術センター | 定額 | 平成22年に多発した黒点症状米(くさび米)の発生要因を解明 |
| 6 | 青森県 | 畜産環境整備リース事業 | H23年度 | 202 (H23年度) | 県 | — | 家畜排せつ物利活用施設リース事業の普及指導 |
| 7 | 秋田県 | 地球温暖化に対応した水稻品種の開発と栽培技術の確立 | H23年度～27年度 | 884 | 県(農業試験場) | — | (1)高温登熟耐性が高い品種を交配母本に用い、秋田県に適応する耐性品種の開発 (2)温暖化に対応した高品質安定生産技術の確立 |
| 8 | 秋田県 | 地球温暖化における寒冷地果樹の凍害防止に関する研究 | H18年度～24年度 | 332 | 県(かづの果樹センター) | — | 生育の前進に伴う晩霜害及び凍害防止試験 (1)りんごの晩霜害対策(耐凍性付与剤)試験 (2)ももにおける幹部の凍害防止試験 |
| 9 | 山形県 | 地球温暖化対応プロジェクト総合戦略事業 | H22年度～27年度 | 15,301 | 県試験研究機関、普及機関 | — | 地球温暖化に伴う気象変動に対応する技術開発を行うとともに、確立された技術や開発品種等を生産現場で実証しながら普及定着を図る |
| 10 | 福島県 | 地球温暖化に伴う気象変動予測と影響評価事業 | H20年度～24年度 | 722 | 県 | — | 地球温暖化に伴う地域気象の変動予測と福島県農業生産への影響を明らかにし、これに対応した農業生産システムを確立するための試験研究の実施 |
| 11 | 埼玉県 | 高温登熟障害に強い水稻生産技術の開発 | H23年度～25年度 | 15,698 | 県農林総合研究センター水田農業研究所 | — | 高温障害を軽減する施肥・栽培管理技術や、高温時の緊急処置技術を開発 |
| 12 | 埼玉県 | 「暑さに負けない」水稻新品種の育成 | H23年度～27年度 | 5,906 | 県農林総合研究センター水田農業研究所 | — | 高温下でも、品質・収穫量の安定した水稻品種を育成 |
| 13 | 茨城県 | 高温耐性に優れる水稻早生品種の育成 | H21年度～26年度 | 680 | 農業総合センター生物工学研究所 | — | 高温条件でも、乳白米や背白米などの白未熟粒の発生の少ない水稻早生品種を育成 |
| 14 | 茨城県 | カンショ蒸切干し(干しいも)の年内出荷・品質向上技術の確立 | H22年度～24年度 | 587 | 農業総合センター農業研究所 | — | 蒸切干し用カンショの糖化促進技術を開発 |
| 15 | 群馬県 | 地球温暖化適応策の調査研究 | H20年度～ | 1,845 | 県試験場 | — | ブドウの着色不良対策や新規高冷地野菜の栽培試験など温暖化に対する現場ニーズを踏まえた試験研究の実施 |
| 16 | 群馬県 | 高温障害対策等生産技術支援 | H24年度～26年度 | 1,700 | 県 | — | 高温障害を回避するための農業生産技術等の実証・普及 |
| 17 | 長野県 | 気候温暖化に適応した果樹栽培技術 | H22年度～24年度 | 769 | 県試験場 | — | りんごの日焼け発生メカニズムを解明し対策技術を開発 |
| 18 | 長野県 | 水稻の高温障害回避による良質米の安定生産技術 | H24年度～26年度 | 1,400 | 県試験場 | — | 水稻の白未熟粒など高温障害を回避する技術を開発 |
| 19 | 新潟県 | 新潟米ブランド力強化対策事業 | H21年度～ | 25,623の内 数 | 県試験場 | — | 良食味・高品質晩生新品種の育成 |
| 20 | 新潟県 | 水稻品質向上技術開発事業 | H22年度～26年度 | 20,000 | 県試験場 | — | 高温条件下でも食味を維持しつつ、一定の品質を確保するための栽培技術開発や地球温暖化に対応した品種選抜等の実施 |

| | | | | | | | |
|----|-----|----------------------------------|------------|------------------|-------------------|-------|--|
| 21 | 福井県 | 福井発の五ツ星ブランド水稲新品種の育成 | H23年度～29年度 | 4,418 | 県 | — | 高温登熟に強く、おいしく、作りやすく、環境にやさしいポストコシヒカリ品種を育成 |
| 22 | 福井県 | 土壌由来温室効果ガス計測事業 | H20年度～24年度 | 1,625 | 県 | — | 温室効果ガス算定の基礎資料となる土壌データを収集（受託事業） |
| 23 | 滋賀県 | 農業・水産業温暖化対策推進事業 | H23年度～25年度 | 228 | 県 | — | 滋賀県農業・水産業温暖化対策総合戦略に基づく対策を総合的・計画的に推進するため、戦略推進会議、技術研修会の開催等の実施 |
| 24 | 滋賀県 | 「胴割れ」と「いもち病」に強い本県独自水稲品種育成技術の開発 | H23年度～25年度 | 2,290 | 県（農業技術振興センター） | — | 近年の夏季高温など、今後、より一層気象変動が推測される中、水稲の品質低下要因となる米粒にひびが入る「胴割れ」に対する耐性品種の育成基盤開発を実施 |
| 25 | 滋賀県 | 茶園における温暖化対策技術の開発 | H24年度～26年度 | 1,945 | 県（農業技術振興センター） | — | 近年の温暖化に伴う気象変動により、本県茶産地では、夏季の干ばつや害虫による被害が増大し、茶の生産性が不安定になっているため、温暖化に伴う気象変動に対応した茶の安定生産技術を開発 |
| 26 | 兵庫県 | “安全安心でおいしい兵庫米”供給促進事業 | H23年度～27年度 | 857 | 県 | — | 温暖化等に対応した品質改善技術（品種・栽培方法）の確立・普及等 |
| 27 | 兵庫県 | 高品質酒米生産対策事業 | H23年度～27年度 | 220 | 兵庫県酒米振興会 | 1/2以内 | 山田錦の品質向上を図るため、生産技術の改善と調製技術向上や検査技術の向上等に対して支援 |
| 28 | 和歌山 | 地球温暖化適応技術の開発委託事業 | H22年度～26年度 | 2,340 | 県果樹試験場 | — | ミカンの浮皮発生予測技術の開発、および植物調節剤などを利用した対策技術の開発 |
| 29 | 鳥取県 | 食のみやこ農産品育成支援事業のうち梨新品種の育成事業 | H21年度～23年度 | 2,500 (H23年度) | 県（鳥取大学と共同研究） | — | 1. 早生自家和合性青梨新品種の育成 2. 温暖化に対応した新台木の育成 3. 温暖化に対応した新品種の育成 |
| 30 | 鳥取県 | 水稲新品種育成試験 | S43年度～ | 1,297 | 県農業試験場 | — | 地球温暖化に対応した高温登熟性の優れた品種等の育成 |
| 31 | 鳥取県 | 気温上昇対策と施肥削減による黒ボク畑特産野菜の生産安定技術の確立 | H22年度～25年度 | 1,844 | 県園芸試験場 | — | 本県の黒ボク畑特産野菜について、地球温暖化による気温上昇に対応した生産技術確立、肥料価格高騰に対応した生産コスト削減、エコファーマーの取り組みに対応するための施肥削減技術を確立 |
| 32 | 鳥取県 | 地球温暖化に対応した白ネギ安定生産技術の確立 | H21年度～23年度 | 1,091 (H23年度) | 県園芸試験場 | — | 年間を通じて販売価格が低位安定化している中、夏期の高温・過乾燥、暖冬等の影響による収量の低下、病虫害の増大による品質の低下等、生産性が不安定になっており、安定生産技術を確立 |
| 33 | 鳥取県 | 気象変動に左右されない花き類の高品質化技術の開発 | H21年度～24年度 | 1,433 | 県園芸試験場 | — | 猛暑等悪状況における低コストで効果の高い出荷時草姿の向上法かつ、日持ち性や株張りの良い栽培法を確立し、生産者所得の向上を図る |
| 34 | 鳥取県 | 農林水産試験場臨時的調査研究事業 | H21年度～25年度 | 1,850 | 県試験場 | — | 臨時的・突発的な試験研究への対応、事前調査・研究素材の蓄積（1試験研究あたり約100千円） |
| 35 | 岡山県 | 地球温暖化適応策関連研究事業 | H21年度～23年度 | 2,700 | 農業研究所 | — | 水稲、もも、ブドウ及びトマトについて、温暖化に対応した品種選定や生産安定技術の検討 |
| 36 | 岡山県 | 農林水産分野における温暖化対策研究強化事業 | H24～H28 | 2,500 | 農業研究所 | — | ・水稲やもも、トマトについて温暖化に対応した生産安定技術の検討 ・研究課題や内容については必要に応じて年度ごとに見直しを検討 |
| 37 | 広島県 | 花壇苗・野菜苗の育苗に適した広島型昇温抑制技術の開発 | H23年度～25年度 | 2,375 | 県立総合技術研究所農業技術センター | — | 花壇苗、イチゴ・トマト苗の培地昇温抑制による開花促進、収量・品質向上、省エネ技術を開発 |
| 38 | 広島県 | 本県主要水稲品種の深い種子休眠を回避する移植時期の解明 | H23年度 | 190 (H23年度) | 県立総合技術研究所農業技術センター | — | 水稲種子生産において、高温登熟により深まる休眠の対策として晩期移植の効果を検討 |
| 39 | 広島県 | 主要農産物等の優良品種選定・種子生産 | H10年度～ | 977 | 県立総合技術研究所農業技術センター | — | 高温登熟性の優れた水稲奨励品種の選定 |
| 40 | 山口県 | やまぐちオリジナル品種等育成加速化事業 | H18年度～24年度 | 2,773の内数 743 | 県試験場 | — | 「ヒノヒカリ」熟期で高温耐性の優れた品種の育成等 |

| | | | | | | | |
|----|------|---|------------|------------------------|-------------|---|--|
| 41 | 香川県 | 気象変動に対応する普通作栽培技術の確立 | H19年度～23年度 | 992千円 (H23年度) | 県試験場 | — | 温暖化の影響を受けにくい米麦品種の品質向上と安定生産技術の開発 |
| 42 | 佐賀県 | イチゴ「さがほのか」の先絞り果発生要因解明と定植後の高温回避による安定栽培技術の開発 | H20年度～23年度 | 539 (H23年度) | 上場営農センター | — | イチゴの先絞り果対策と簡易細霧冷房等による高温対策で1次腋花房の分化促進試験を実施 |
| 43 | 佐賀県 | 温暖化に対応した高温対策による上場地域のイチゴ増収技術の確立 | H21年度～23年度 | 365 (H23年度) | 上場営農センター | — | 遮光と低コスト細霧冷房による高温対策試験を実施 |
| 44 | 佐賀県 | 地球温暖化における夏秋高温環境が本県主要野菜花きに及ぼす影響と対策技術の確立 | H21年度～23年度 | 2,842 (H23年度) | 農業試験研究センター | — | イチゴ、ホウレンソウ、キク等施設野菜・花きにおける温暖化に対応した安定生産技術の確立に向けた技術開発を実施 |
| 45 | 佐賀県 | 温暖化、省エネ化に対応したトルコギキョウの環境制御技術の確立 | H23年度～25年度 | 434 | 農業試験研究センター | — | トルコギキョウの温暖化に対応した品質向上技術の確立に向けた技術開発を実施 |
| 46 | 佐賀県 | 多様な実需及び消費ニーズに対応した売れる米品種の開発 | H17年度～26年度 | 1,696 | 農業試験研究センター | — | 温暖化に強い良質、良食味の水稲品種や温暖化により発生が多い病虫害に対する抵抗性品種を育成 |
| 47 | 佐賀県 | 需要の動向に即した水稲新品種系統の作柄安定化対策試験 | H7年～ | 460 | 農業試験研究センター | — | 本県で育成した高温でも収量や品質が優れる品種や、他の機関で育成された有望系統について、気象条件に合った栽培技術の確立に向けた技術開発を実施 |
| 48 | 佐賀県 | 佐賀オリジナルブランドとなり得るキク新品種開発および栽培技術の確立 | H22年度～26年度 | 697 | 農業試験研究センター | — | 本県の気候に適し、高温耐性や低温伸長・開花性に優れ低コスト・省力栽培が可能な特徴を有するキクの新品種の開発と品種の特性を活かした栽培技術の確立に向け試験を実施 |
| 49 | 佐賀県 | 生食適正等新規ニーズに即した単為結果性ナス新品種の開発 | H18年度～24年度 | 1,023 | 農業試験研究センター | — | 生食適性や機能性を有し、高温期でも単為結果性に優れるナスの品種開発を実施 |
| 50 | 佐賀県 | 効率的灌水による土壌水分管理技術の確立 | H22年度～24年度 | 617 | 茶業試験場 | — | 夏秋期における灌水の生育への効果、効率的で散水効果の高い灌水方法を検討 |
| 51 | 宮崎県 | 地球温暖化対応「みやざきモデル」確立事業 | H23年度～25年度 | 10,187 | 県 | — | 地球温暖化に対応した技術開発や実証・普及に向けた支援策の実施 |
| 52 | 鹿児島県 | 地球温暖化に対応した農業生産技術等の研究・開発 | H20年度～24年度 | 6,758 | 県農業開発総合センター | — | 果樹（カンキツ、ブドウ等）や野菜（ダイコン、ハクサイ等）における高温の影響を回避・軽減するための生産安定技術の確立及び新品種や新規品目の導入とその栽培技術の確立を図る。併せて、施設等の被覆の簡易化による低コスト栽培技術や新たな作型の開発を図る（温暖化を利用したハクサイの栽培技術を開発、着色に優れるブドウ品種の選定） |
| 53 | 鹿児島県 | 高温期の生産安定及び新たな需要創出に対応した花き類の新品種育成 | H16年度～25年度 | 560の内数 | 県農業開発総合センター | — | 耐暑性、高温開花性のあるスプレーギクを育成（夏秋スプレーギクのサザンシリーズ29品種を育成） |
| 54 | 鹿児島県 | 秋冬期の温暖化に対応したカンザワハダニ防除体系の確立 | H20年度～24年度 | 265 | 県農業開発総合センター | — | 茶害虫カンザワハダニの越冬生態・多発要因を解明し、秋冬期の防除体系を再構築する |
| 55 | 鹿児島県 | CO2削減に向けたLED利用による環境にやさしい花き栽培技術開発 | H23年度～24年度 | 1,401 | 県農業開発総合センター | — | ソリダゴの電照栽培における白熱灯の代替光源としてLEDを使った節間伸長、開花抑制の電照技術を確立し、光による休眠打破や病虫害防除等の利用技術を開発 |
| 56 | 鹿児島県 | 普通期水稲新品種育成試験 | H8年度～ | 1,700の内数 | 県農業開発総合センター | — | 耐倒伏性、収量性、高温登熟性に優れる極良食味水稲品種を育成（高温の影響を回避できる水稲品種「あきほなみ」を育成） |
| 57 | 鹿児島県 | ピーマン類栽培の低コスト化と高品位安定生産技術の確立 | H24年度～28年度 | 900の内数 | 県農業開発総合センター | — | 施設栽培ピーマンのCO2排出量の低減と暖房コスト低減に資するため、生長点局所加温法と日射比例変夜温管理を併用した技術を開発 |
| 58 | 沖縄県 | 沖縄県産業振興重点研究推進事業（殺菌水の煙霧散布を利用した沖縄型畜舎内環境コントロールシステム構築による豚生産効率の向上） | H21年度～23年度 | 19,134 (H21～23年度総計) | 県畜産研究センター | — | 温暖化適応策の1つとして、弱酸性次亜塩素酸水による消毒効果と気化冷却作用を組み合わせた本県の豚舎構造に適する舎内環境コントロールシステムの構築を亜熱帯地域において行う |

(注) ここで掲載している予算以外にも、地球温暖化適応策関連予算がある。

(3) 地球温暖化適応策関連ホームページ

農林水産省

生産局

○ 農林水産省生産局地球温暖化対策

生産現場における地球温暖化影響の調査や適応策の導入の推進

URL <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kanky/ondanka/index.html>

品目別地球温暖化適応策レポート

— 現在地球温暖化により農業生産現場で発生している影響と、それを回避、軽減する適応技術を紹介

地球温暖化影響調査レポート

— 農業生産現場での高温障害など地球温暖化によると思われる影響と適応策について紹介

平成22年度高温適応技術レポート

— 平成22年夏が記録的な猛暑により多くの農畜産物に被害があったことから、高温適応技術の実施状況、当面の適応技術及び研究開発課題等についてとりまとめ紹介

農林水産技術会議事務局

○ 農林水産省技術会議事務局情報データベース

農林水産省で行っている研究開発などについてのデータベースを紹介

URL <http://www.s.affrc.go.jp/docs/database.htm>

研究成果

— 独立行政法人、都道府県の試験研究機関等の研究成果の中から、特に普及すべき技術等を紹介

農林認定品種データベース

— 農林水産省の委託等により、独立行政法人、都道府県の試験研究機関等が育成した農作物の新品種について品種特性や写真を掲載

○ 刊行物・パンフレット

農林水産省の研究開発関連の刊行物について電子ファイルを掲載

URL <http://www.s.affrc.go.jp/docs/kankoubutu.htm>

農林水産研究開発レポート (No. 23)

— 地球温暖化により我が国の農林水産業が今後どのような影響を受け、どう対応していく必要があるのかについて、総合的に紹介

農業新技術200X

— 最新の研究成果のうち、普及推進が望まれる重要な農業技術を紹介

気象庁

○ 防災気象情報

気象警報・注意報や、天気予報等の提供を実施

URL <http://www.jma.go.jp/jma/menu/flash.html>

— 天気予報（毎日5時、11時、17時に更新）

今日・明日・明後日の天気と風と波、明日までの6時間ごとの降水確率と最高・最低気温の予想

— 週間天気予報（毎日11時、17時に更新）

発表日翌日から7日先までの期間の予報

— 季節予報（毎週または毎月更新）

1か月（毎週発表）、3か月先（毎月発表）までのおよその天候の特徴
2月下旬と9月下旬には、それぞれ春～夏、秋～冬期間の予報

— 異常天候早期警戒情報（火曜日または金曜日に更新）

1～2週間程度先に気温がかなり高くなる、あるいは低くなると予想される場合に発表

— 天気分布予報、時系列予報、天気図 等

その他

○ 「農業温暖化ネット」（運営事務局：地球温暖化適応策推進協議会）

農作物の温暖化に関する対策情報などからなる農業における地球温暖化関連情報を提供するサイト

URL <https://www.ondanka-net.jp/>

○ 「地球温暖化と農林水産業」（運営事務局：（独）農業環境技術研究所）

地球温暖化現象と農林水産業の関わりに関する研究成果や関連情報を広く提供するサイト

URL <http://gpro.dc.affrc.go.jp/>

農林水産省生産局では、主要品目について、高温障害等地球温暖化によるものと考えられる影響への当面の適応策や今後の対応方針をまとめた「品目別地球温暖化適応策レポート」を公表しています。

品目別地球温暖化適応策レポート

(http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/pdf/ondanka_tekio_report.pdf)

【問い合わせ先】

農林水産省 生産局 農産部 農業環境対策課 地球温暖化対策推進班

TEL：03-6744-2114、FAX：03-3502-0869